

いちごを重点作物とした収益力の向上と女性活躍の推進

のうじくみあいほうじん しま
農事組合法人 島

※2025年現在



■組織情報

所在地	下新川郡入善町新屋地区
設立年次	2006年1月
代表者	代表理事 長谷川 一男
構成員	45人
社員等	理事5人、監事2人、事務局2人、従業員3人

2021年からいちごの養液土耕栽培も開始

組織の概要

当該組織が所在する島集落は、入善町南部の新屋地区に位置しており、町中心部から南へ約6km、標高75～90mに水田が広がる平地農業地域である。

集落では、将来的な担い手不足や生産資材・農業機械の価格上昇が農業経営に影響を及ぼすことを懸念し、平成18年に法人を設立した。

現在、45戸で法人経営を行っており、当初は主穀作経営であったが、従業員の通年雇用の考えから、冬期間の労力活用と安定した収入を図るため、さといもやいちごの栽培を行っている。

生産状況

●経営耕地面積	58ha（ほか作業受託あり）
●水稲	39ha
●大豆	18ha
●さといも	0.4ha
●いちご	0.1ha（ハウス1棟）

主な設備

●トラクター	6台
●コンバイン	4台（普通型2台）
●田植機	2台（直進アシスト付1台）
●ドローン	1機
●乾燥調製施設	1棟、いちごハウス1棟

特徴的な取組及び成果

- 将来的な担い手不足の解消と個々の農業経営の改善に向け、「集落で協力して営農する」方針のもと集落営農組織を立ち上げた。水稲中心の栽培から、消費者ニーズを踏まえてさといもやいちごを導入し、**複合経営へと転換**している。
- 人材確保では、地域おこし協力隊員や「とやま農業未来カレッジ」卒業生、県外移住者を雇用し、**外部人材の受け入れと後継者育成**を進めている。新規雇用者には組織の方針を丁寧に説明し、本人の希望も踏まえた働き方を話し合うことで、**定着しやすい環境づくり**に努めている。
- 加工・販売分野では女性が中心となり、いちごジャムの商品化やセット販売など、**女性の視点を活かした商品開発**を展開している。また、加工室や休憩室を整備し、**女性が働きやすい環境と活動拠点の充実**を図っている。
- 技術面では、水管理や畦畔管理の研修会を通じ、作業方法の共有により**生産性の向上**を図っている。さらに、ドローンによる追肥・防除、水稲の直播、いちごの養液土耕栽培など、**省力化・コスト削減につながる技術の導入**にも取り組んでいる。

今後の目標

- 現在、組織は代替わりの時期を迎えており、長年組織を支えてきたメンバーの作業技術や**経営ノウハウを次世代へ円滑に引き継ぎ**、継続できる体制を整える。
- 労働体制を整備しながら、**いちごを重点作物として生産量の拡大**を図り、収益性を高める。また、女性の視点を生かした加工・販売を継続し、**組織経営の安定化と女性の活躍促進**を進める。
- 集落内に限らず**県外からの移住者も含め後継者の確保**に積極的に取り組み、安定した労働体制を構築する。併せて、スマート農機の導入や生産管理技術の徹底により、**組織全体としての生産効率と収益率の向上**を目指す。